

種の概要

伊豆半島から種子島までに分布。甲幅20mm。雄のハサミは片方が巨大化し、成熟個体では体よりもはるかに大きくなり、白く目立つ。甲は、ほぼ白一色の個体から黒褐色の斑の入った個体まで個体変異がある。雌のハサミは両方とも小さく、雄の小さい方のハサミとほぼ同様の形態。摂餌はこの小さいハサミを用い、干潟表面に付着する珪藻類などを食べる。雄は繁殖期に大きいハサミを振り回してウェービングを行う。その動きは派手で、一旦体の真横にハサミを広げた後、真上に上げて振り下ろすといった動作を行う。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
			○				

県内分布

西宮市、加古川市、高砂市、姫路市、相生市、たつの市、赤穂市、洲本市、南あわじ市、淡路市

県内における生息状況及びその他特記事項

AからCに変更。阪神地域から播磨西部にかけて、及び淡路島で確認されている。県内では、1990年代にはかなり希少な種であったが、分布域も広がり、個体数は増加傾向にある。

保護上の留意点

本種は砂泥質干潟の比較的地盤の高い場所を好むため、護岸工事や海岸線改修などで生息環境が破壊されやすい。



写真提供：増田修



写真提供：増田修